

上ノ国町および積丹町でのシロマダラの発見

徳田龍弘^{*1}・山口裕司^{*2}

^{*1} 〒005-0021 北海道札幌市南区真駒内本町 7-4-27 ばいかだ WILD-PHOTO
^{*2} 〒060-0033 北海道札幌市中央区北 3 条東 3-1-30 株式会社エコテック地域環境センター

はじめに

シロマダラ *Lycodon orientalis* は北海道・本州・四国・九州および佐渡・隠岐・壹岐・五島列島・男女群島女島・種子島・屋久島・硫黄島・伊豆大島に生息する(鳥羽,1996)。北海道では記録は少ないが、現在までに石狩市・札幌市・函館市・奥尻町・せたな町・七飯町・松前町(徳田,2018)・泊村(徳田,2019)での確認がある。今回、上ノ国町と積丹町でのシロマダラの生息が確認されたため、追加で報告する。

確認状況

A. 上ノ国町の個体

2018年7月19日20:49に、上ノ国町小安在の林道にそって設置されているコンクリート擁壁(図1)の水抜き用塩化ビニールパイプ(以降、塩ビ管とする)内でシロマダラ雌の成蛇(図2)を山口が捕獲した。捕獲当時の天候は曇りであった。最も近い江差の气象台のデータでは2018年7月19日20:50の気温は21.8℃、相対湿度は89%、平均風速は北西の風0.4m/sであった(気象庁,2020)。周囲の植生は草地であり、発見当時は、他の爬虫類は確認されなかった。過去の調査では当地ではニホンマムシ *Gloydius blomhoffii* やアオダイショウ *Elaphe climacophora* が確認されている。

B. 積丹町の個体

2020年8月20日14:20頃に、積丹町大字神岬町付近の道路でシロマダラの幼体が死んでいるのを積丹町在住の竹田氏が発見した。頭部が一部潰れているように見えるため轢死が疑われるが、アリ類の捕食を受けており、頭部と上腹部は部分的に欠損していた(図3)。道路は高台に向かう細い舗装道路で、両脇はイタドリに覆われた藪地となっており、イタドリの奥は斜面となっていた。周囲には建築物はなく、発見場所は人や車はほとんど通らない。拾得当時の天気は曇りで、風は体感で弱風であった。最も近い美国の气象台データでは2020年8月20日14:20の気温は20.6℃、平均風速は北の風0.8m/sであった(気象庁,2020)。



図1. 発見場所(上ノ国町)

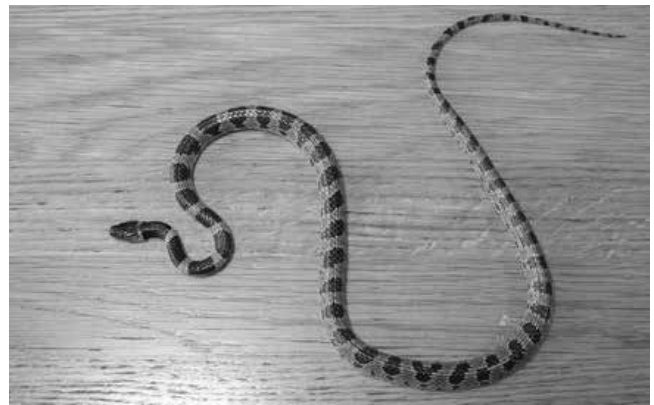


図2. 上ノ国町で捕獲されたシロマダラ

個体情報

A. 上ノ国町の個体

雌の成蛇で、全長55.1cm、頭胴長43.0cm、尾長12.1cmで尾長率(全長/尾長)は約0.22であった。腹板数は197、尾下板数は61対、肛板は2分、胴の中央付近で体鱗列数は17であった。腹板数の位置での体鱗数の相関状況は腹板数:体鱗列数として、1:21,3:20,7:19,9:18,10~137:17,138~142:16,143~197:15だった。背部の横帯(バンド)数は左側(L)56・右側(R)58で、胴部L39・R40、尾部L17・R18であった。

B. 積丹町の個体

幼体で雌雄不明、全長31.3cm、頭胴長25.0cm、尾長6.3cmで尾長率は約0.20であった。腹板数は200、尾下板数は64対、肛板は2分、胴の中央付近での体鱗列数は17であった。体に捕食による欠損があるため、腹板数の位置での体鱗列数の対応状況は詳細に調べられなかった。部分的な計測では前頸部(第3腹板付近)で体鱗列数19(第1腹板付近は体鱗が欠損)、胴の中央付近(第100腹板付近)で体鱗列数17、総排泄腔上部(第199腹板)で体鱗列数15であった。背部の横帯数はL57・R57で、胴部L42・R42、尾部L15・R15であった。本調査で得られたシロマダラ2個体の個体情報や頭部鱗相は表1にまとめた。



図 3. 積丹町で拾得されたシロマダラ幼蛇の死骸 (撮影: 竹田氏)

考 察

コンクリート擁壁内の塩ビ管内は多くのヘビ類が好んで利用する傾向にあり, シロマダラでは福島県より報告されているが (照井・徳田,2014), 本研究により北海道で初めて観察された. したがって, 道内においてもコンクリート擁壁内の塩ビ管内はシロマダラにとって好適な環境である可能性がある.

また, 北海道ではシロマダラの路上死の確認例も少なく, 七飯町の確認例 (徳田,2011)のみであったが, 今回の積丹町では路上の死骸としての確認例となった. 推測にはなるが, 著者は北海道内で路上のヘビ類の死骸をハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* やトビ *Milvus migrans*, キタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* がくわえて運んでいるところを頻繁に観察している. これらの動物は路上死骸を捕食するスカベンジャーの性質を持ち, 路上死骸を持ち去るため, 路上死骸が見つかりにくいのではないかと思われる.

謝 辞

積丹町のシロマダラの情報および標本を送って下さった, 竹田氏 (積丹町)には厚く御礼申し上げます.

参考文献

気象庁.2020. 過去の気象データ検索< <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>>. (2020年12月15日アクセス)

照井滋晴・徳田龍弘.2014. 福島県南相馬市で確認されたシロマダラ (*Dinodon orientale*) の隠れ場所. 爬虫両棲類学会報2014(2): 89-92.

徳田龍弘.2019. 珍しいヘビ・シロマダラが泊村で見つかる～釣ったニジマスの腹の中に～. 北海道爬虫両棲類研究報告Vol.006:24.

表1. 上ノ国町および積丹町のシロマダラの個体情報

	上ノ国町産	積丹町産
全長 TBL	55.1cm	31.3cm
頭胴長 SVL	43cm	25cm
尾長 TL	12.1cm	6.3cm
尾長率 TL/TBL	0.219601	0.201278
体重 BW	未計測	未計測
腹板数 Ventrals	197	200
尾下板数 Subcaudals	61対	64対
肛板 Anals	2分	2分
上唇板 Supralabials	L8 (3,4,5) R8 (3,4,5)	L確認不能 (3,4,5) R確認不能
下唇板 Infralabials	L9 R9	L確認不能 R9
眼前板 Preoculars	L0 R0	L0 R確認不能
眼後板 Postoculars	L2 R2	L R確認不能
頬板 Loreal	L1 R1	L1 R1
側頭板* Temporals	L (2+3) R (2+2+2)	L確認不能 R (2+確認不能)
体鱗数 Scale rows	3+4 (138) 17 (10) ————— 15 3+4 (143)	全ては計測できず
前頸部 Anterior neck	19~21	19~後頭部確認不能
胴の中央部 Central body	17	17
総排泄口前方 In front of cloaca	15	15
横帯 Dark bands	L56 R58	L57 R57
胴部 Trunk	L39 R40	L42 R42
尾部 Tail	L17 R18	L15 R15

徳田龍弘.2018. 北海道のシロマダラ. *Caudata* 2:36-37. 有尾社, 東京.79p.

徳田龍弘.2011.2009年現在北海道で確認されているシロマダラ (*Dinodon orientale*) の記録について. 爬虫両棲類学会報2010 (1): 32-35.

鳥羽通久.1996. シロマダラ. p.92, p.99. 千石正一他 (編) 日本動物大百科第5巻両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社, 東京